

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十一號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月一日(火)

○令 達

官房機密第三一五三號

昭和十一年十二月一日

海軍大臣

要令
今規
登載

各鎮守府司令長官殿

練習艦艇配當ノ件訓令

昭和十二(教育)年度練習艦艇ノ指揮ニ關シ別ニ定メラザル練習艦艇ノ配當ハ別表ノ通ト心得ベシ
(別表一葉添)

○通 牒

官房第五五三九號

昭和十一年十二月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

艦船部隊ニ「ラデオ」供給竝ニ裝備ニ

關スル件通牒

首題ノ件自今左記方針ニ據ルコトニ定メラレ候

記

- 一、「ラデオ」受信機竝ニ同用擴聲器ハ之ヲ艦營需品トシテ取扱フコトトシ艦船部隊ニ對スル其ノ供給數竝ニ裝備個所標準ハ別表ニ據ル
- 二、艦船ニ對スル空中線及艦内電線ハ官ノ手ニ依リ架設シ空中線ハナルベク輕易ナルモノトシ所要ニ應ジ收納シ得ルモノトス
- 三、經費
 - (一)「ラデオ」官給ニ對スル經費ハ新艦(艦艇製造費支出可能ナル艦船ヲ含ム)ニ對シテハ艦艇製造費ヲ以テ初度調辨シ既成艦ニ對シテハ空中線及艦内電線ノ架設ニ伴ヒ差當リ艦營需品費ヨリ許シ得ル範圍ニ於テ差繰リ供給ス
 - (二) 空中線及艦内電線ノ架設ハ既成艦ニ對シテハ修

海軍公報(部内限) 第二千四百九十一號

昭和十一年十二月一日

七〇九

海軍公報(部内限) 第二千四百九十一號 昭和十一年十二月一日

四、既成艦現有ノ「ラデオ」ハ艦營需品ニ組入ルルモノトス
(別紙一葉添)
理費ヲ以テ改裝、大修理等適當ナル時機ヲ見テ遂次ニ施行シ新艦ニ對シテハ艦艇製造費支辨ニ依リ施行スルモノトス

○訓令

海軍省出仕海軍少佐 大橋 恭三
臨時調査課ニ於テ服務シ兼テ海軍省軍務局ニ於テ服務スヘシ(十日海軍大臣)

○辭令

海軍省事務囑託兼第三艦隊幕僚事務囑託 信夫 淳平
兼第三艦隊幕僚事務囑託ヲ解ク
自今報酬ヲ給セズ(十日海軍省)
海軍技術會議議員海軍中將 佐藤 三郎
海軍高等技術會議議員ヲ命ス

(各通)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
海軍機關中佐	同	海軍機關大佐	同	同	海軍少佐	同	同	同	同	同	同	海軍中佐	同	同	同	同	同	海軍造兵少將	同	同	同	同	同
西山 健藏	美奈川 武保	澤 達	志和 彪	高内 和義	石原 宇市	石塚 千俊	高橋 雄次	朝倉 豐次	原 鼎三	中村 俊久	中島 寅彦	山縣 正郷	三竝 貞三	日高 鑛一	草鹿 任一	朝隈 彦吉	細莖 戊子郎	杉山 俊亮	佐藤 市郎	三木 太市	海軍少將	三木 太市	

同	同	秋重 實惠
同	同	釜田 勇
同	海軍造船大佐 子爵 徳川 武定	
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス		
海軍技術會議議員海軍少將	原 五郎	
同	佐藤 市郎	
(各通) 同	海軍大佐 三竝 貞三	
同	同 桑原 虎雄	
同	同 山縣 正郷	
海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス		
海軍省出仕海軍大佐	阿部 嘉輔	
臨時調査課長ヲ命ス		
兼テ海軍省軍務局ニ於テ服務スヘシ		
福州出張ヲ免ス	同	須賀 彦次郎
	海軍大佐 辻 榮作	
派遣勤務員トシテ海軍省人事局勤務ヲ命ス		
漢口駐在ヲ命ス	海軍中佐 鎌田 正一	
	同 湊 慶讓	
上海駐在ヲ免シ福州へ出張ヲ命ス		
漢口駐在ヲ免ス	同	中津 成基
上海駐在ヲ免ス	海軍少佐 鈴木 正金	

海軍大尉 高橋 孫三郎
 派遣勤務員トシテ海軍省電信課勤務ヲ命ス(以上三三
 海軍省)
 海軍大佐 辻 榮作
 第二課勤務ヲ命ス(以上海軍省人事局)

海軍公報(部内限) 第二千四百九十一號 昭和十一年十二月一日 七一

海軍砲術學校	海軍水雷學校	海軍通信學校	海軍工機學校	横須賀海軍航空隊	海軍航海學校	海軍潜水學校
山城		木曾		島		大井、長鯨、第十一驅逐隊、第十八潜水隊、第十九潜水隊、伊號第七十一潜水艦
第三驅逐隊		第十驅逐隊		第九潜水隊		
第一掃海隊						
春日						

昭和十二(教育)年度練習艦艇配當表

(昭和十一年十二月一日公報(部内限)別紙)

別表

(一) 艦 船

「ラヂオ」受信機及同用擴聲器ノ供給數竝ニ裝備個所標準

(昭和十二年十二月一日公報(部内限)別紙)

記 事	擴 聲 器									受信機	裝備個所 艦 種
	兵 員 室	准 士 官 室	第二士官次室	第一士官次室	士 官 室	艦 長 公 室	幕僚休憩室	參謀長公室	司令官公室		
「ラヂオ」受信機ノ裝備數ハ擴聲器配置等ノ關係上狀況ニヨリ本表標準ヨリ更ニ一個ヲ増スコトヲ得	四	一	一	一	一	一	一	一	一	三	戰艦 巡洋艦 (七千噸以上)
	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二	巡洋艦 (七千噸未満)
	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二	航空母艦 水上機母艦 潜水母艦
	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二	海防艦
	一	一			一					一	驅逐艦
	一				一					一	水雷艇 掃海艇 潜水艇
	一	一			一	一				一	特務艦
	一	一			一	一				一	

(二) 部隊(海兵團、防備隊、航空隊)

准士官以上公室 各一

兵員用トシテ 一

海軍公報(部内限)號外

昭和十二年十二月一日(火)
海軍大臣官房

○ 辭 令

吳鎮守府第一特別陸戰隊附兼分隊長第三艦隊司令部附海軍大尉

中野 忠夫

補初春砲術長兼分隊長

川内分隊長海軍大尉 蓼沼 三郎

補吳鎮守府第一特別陸戰隊附兼分隊長第三艦隊司令部附

鳳翔乘組海軍中尉 梅田 英雄

補佐世保鎮守府第一特別陸戰隊附兼第三艦隊司令部附(以上三〇海軍省)

海軍公報(部内限)號外

(限 内 部)

1708

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十二號

昭和十一年十二月二日(水)

海軍大臣官房

○通牒

艦本機密第一六一三七號

昭和十一年十一月三十日

海軍艦政本部長

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
舞鶴要港部軍需部長

兵器保管轉換ノ件通牒

左記記載ノ兵器ハ今般艦營需品トシテ整理ノコトト相
成候ニ付現ニ保管中ノモノ及供用、貸與中ノモノハ全
部共ノ艦營需品ニ保管轉換方取計相成度

記

航海長主管備品

井上式三角定規

懐中電燈

九〇式速力標

一型

同 同 二型

同 同 三型

同 同 四型

寫真器用備品

比例兩脚器

三角定規

穗替兩脚器

平行定規

中折兩脚器

航海長主管消耗品

寫真機用消耗品

各種用紙類

油

乾爆劑

護謄管

砲術長主管備品

銃劍術要具

セルロイド製

(ローラー付共)

海軍公報(部内限) 第二千四百九十二號

昭和十一年十二月二日

七一三

工 作 器 具	同	四〇立入
工 業 要 具 甲	同	大
工 業 要 具 乙	同	中
水 力 起 重 機	同	小
水 力 機 漏 斗	魔 式 回 螺 器	
甘 油 樹	各 種 砲 油 差	(鐵 刀 製)
甘 油 濾	軍 樂 兵 器	全 部
彈 藥 庫 鍵 箱 鍵 入 鞘	砲 術 長 主 管 消 耗 品	
革 切 器 大	牛 皮	
革 切 器 小	目 塗 劑	
彈 藥 糧 囊	塩 化 カ ル シ ュ ム	
彈 藥 作 業 衣 (發 煙 器 用)	一 號 乾 燥 劑	
煙 藥 作 業 手 袋 (發 煙 器 用)	硝 子 拭 布	
木 槌 大	鈴 羊 布	
電 池 用 漏 斗 大	掃 除 筆	
同 小	硝 化 亞 鉛 砂	
立 量	塩 化 亞 鉛	
水 鉢	硫 酸 銅	
水 注	鋸 屑	
溶 液 瓶 二〇立入	護 謨 管 (三 次 電 池 檢 電 機 用 除 外)	
	九 二 式 射 擊 盤 記 錄 用 紙	

海軍公報(部内限) 第二千四百九十二號 昭和十一年十二月二日

七二六

護謨製手桶

護謨管 二次電池注射液用並に
換液用

スポイト 「オンス」入

機關長主管消耗品

調製 製筆

鐵附糊

注油器用硝子

硝子管 スポイト用
比重計用

油面計硝子

○辭令

東雲乘組被仰付

海軍豫備少尉 河合 孝道

海軍豫備機關少尉 五十嵐 義松

磯波乘組被仰付(正)海軍省)

○雜款

○懲罰

懲罰言渡書

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十三號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月三日(木)

○通牒

統本機密第二二九三號

昭和十一年十二月二日

海軍航空本部長

佐世保、廣海軍工廠長
海軍航空廠長 殿

航空兵器修理材料供給追加並ニ
變更ノ件通牒

昭和十一年四月一日航本機密第六〇三號首題通牒中左
記ノ通追加並ニ金額ヲ變更ス

供給先

金額 記事

軍艦陸奥	一〇〇圓	
軍艦高雄	一〇〇圓	
軍艦摩耶	一〇〇圓	追加
軍艦沖島	八〇圓	
軍艦由良	八〇圓	

軍艦山城	一〇〇圓	
軍艦日向	二三〇圓	金額變更
軍艦足柄	二五〇圓	

(昭和十一年四月一日海軍公報(部内限)参照)

○雜款

○懲罰

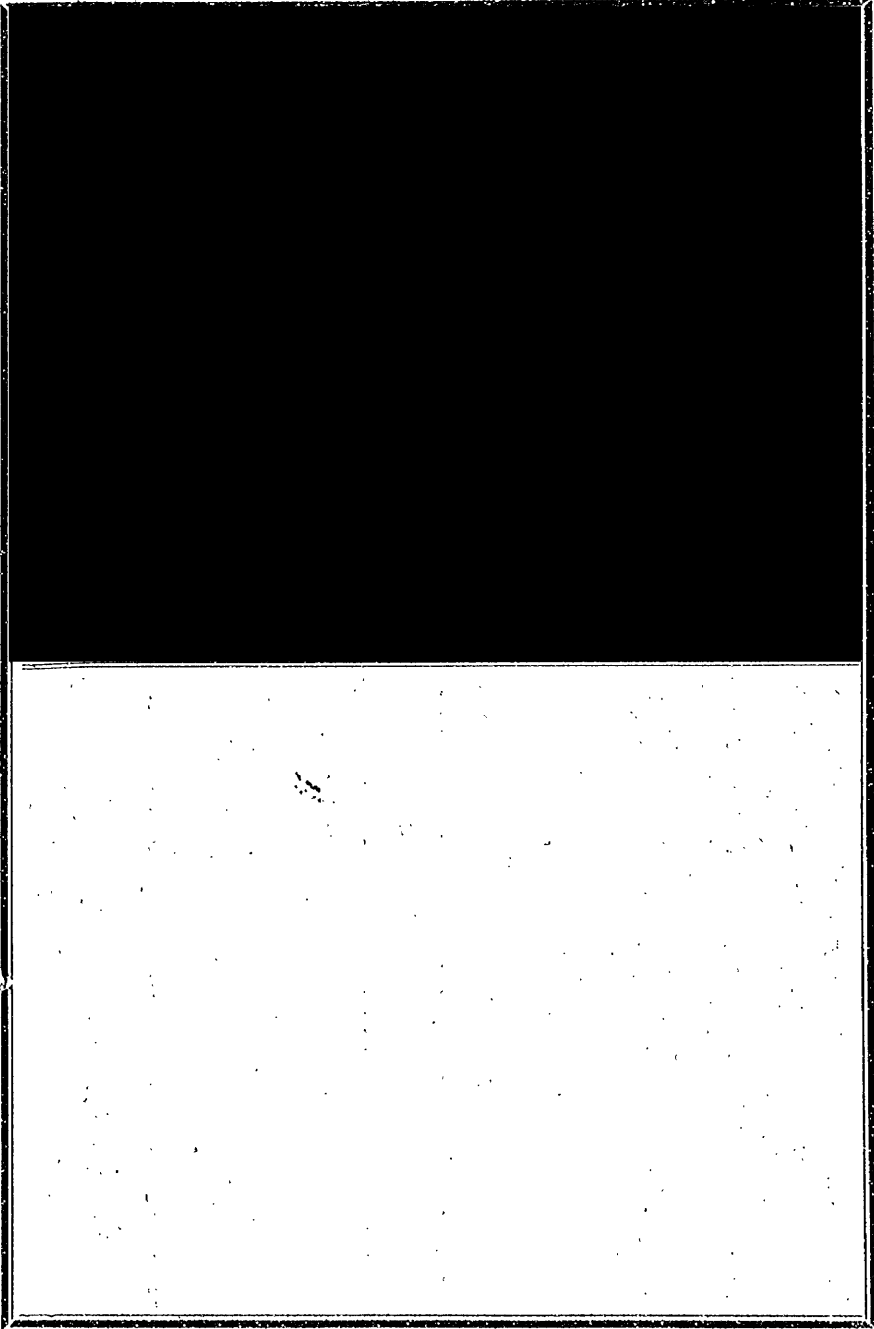
懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第二千四百九十三號

昭和十一年十二月三日

七一七

1713



海軍公報(部内限) 第二千四百九十三號

昭和十一年十二月三日

七一八

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十四號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月四日(金)

○ 辭 令

上海へ出張ヲ命ス(駐日海軍省) 海軍技手 加治木 喜文

第三部第六課長ヲ命ス 軍令部課長海軍大佐 伊藤 賢三

第四部第八課長ヲ命ス 同 同 原 鼎三

第三部第五課長ヲ命ス 同 同 小川 貫璽

第一部勤務ヲ命ス 軍令部部員同 横井 忠雄

第四部勤務ヲ命ス 軍令部出仕海軍中佐 木岡 蟻志松

第一部第二課勤務ヲ命ス 同 同 林 榮邇

第一部第二課勤務ヲ命ス 軍令部部員同 石塚 千俊

第三部第五課勤務ヲ命ス 同 同 重廣 篤雄

第二部第四課兼同三課第一部第二課勤務ヲ命ス 同 同 馬場 良文

第二部勤務ヲ命ス 軍令部出仕同 杉浦 矩郎

第一部第一課勤務ヲ命ス 軍令部部員同 山澄 忠三郎

第四部第十課勤務ヲ命ス 軍令部出仕海軍少佐 山田 達也

第三部勤務ヲ免シ第一部第一課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 朝 融 王

第三部第五課勤務ヲ命ス 軍令部部員同 山路 一行

第二部第三課勤務ヲ命ス 軍令部出仕同 柚木 徳重

第三部勤務ヲ命ス 軍令部出仕同 高瀬 五郎

海軍公報(部内限) 第二千四百九十四號 昭和十一年十二月四日

第一課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 木阪 義胤	第二課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 和田 雄四郎	第三課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 扇 一 登	第四課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 中村 三男	第五課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 宣仁 親王	第六課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 滿武 善一	第七課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 關本 好雄	第八課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 鈴木 英	第九課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 安村 對一	第十課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 釜田 勇
--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

第二部第四課兼同第三課第一部第二課勤務ヲ命ス 軍令部出仕兼部員同 平井 龍吉	(各通) 同 海軍機關中佐 早川 倉治	同 小川 得一	海軍大學校長ノ命ヲ承ケ臨時機關大中佐講習ニ從事スヘシ(以上ハ同軍令部)
----------------------------------------------	---------------------------	------------	-------------------------------------

<p>○特務艦膠州行動豫定</p> <p>地名 着 發</p> <p>横須賀 十二月二十七日</p> <p>ヤルノト 廿一年一月六日</p> <p>ポナペ 廿一年一月二十九日</p> <p>トラツク 二月五日</p> <p>サイパン 十九日</p> <p>横須賀 三月三日</p>	<p>○郵便物發送先</p> <p>軍艦多摩宛 自今 佐世保郵便局氣付(軍事郵便)</p> <p>特務艦膠州宛 十二月六日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀</p> <p>其ノ後ハ 横濱郵便局氣付</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十五號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月五日(土)

○ 通 牒

艦本第一四〇二八號

昭和十一年十二月四日

海軍艦政本部長
海軍航空本部長

關係各廳長殿

同一支出官内支拂豫算移用報告ニ
關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ昭和六年八月二十一日艦本第三七
四九號(同日附部内限公報參照)ヲ以テ豫算移用ノ場
合ハ其ノ都度報告方照會ノ處近來年度末ニ於テ移用セ
ラレタル分ニ對シテハ大部分報告無之爲ニ決算整理上
支障ヲ來シ候條爾今年度末ノ分ト雖モ必ズ報告方勵行
相成度

○ 辭 令

○ 雜 款

(各通) 海軍技術會議議員海軍中佐 菊池 朝三
同 馬場 良文

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

海軍省出仕海軍中佐 高木 惣吉

臨時調査課課員ヲ命ス

兼テ海軍省軍務局ニ於テ服務スヘシ

海軍大尉 齋藤 嘉十郎

派遣勤務員トシテ海軍省電信課勤務ヲ命シ置キタル
處之ヲ差免ス(以上^{海軍省}海軍省)

海軍少佐 愛甲 文雄(千鳥)

海軍機關少佐 鈴木 重初(艦本)

水雷艇千鳥審議委員ヲ命ス

海軍少佐 林 幸市

海軍機關中佐 石塚 正俊

水雷艇千鳥審議委員ヲ免ス(以上^{海軍艦政本部}海軍艦政本部)

○書類發送先
 舊第二十驅逐隊宛書類ハ當分ノ間第十二驅逐隊(東雲)
 宛御送付ヲ得度
 追而給與關係及主計長宛書類ハ第十九驅逐隊(磯波)
 宛

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十六號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月七日(月)

○令 達

官房機密第三二〇七號

左記ノ者當分ノ間附記品種ニ限リ海軍購買名簿ニ依ル指名競争契約ノ入札又ハ隨意契約ノ見積加入ノ指定ヲ停止ス

昭和十一年十二月五日

海 軍 大 臣

記

一 合資會社大田計器製作所

東京市本郷區湯島新花町四三

海軍購買名簿第五類第一九項 溫度記錄計

○辭 令

海軍技師 川名 忠兵衛 (艦本監)

水雷艇鴨審議委員ヲ命ス

○雜 款

水雷艇鴨審議委員ヲ免ス(以上二項海軍艦政本部)
海軍機關中佐 春日 武

○書類發送先

横須賀防備戰隊司令部宛

自 今

軍 艦 殿 島

○事務引繼

第三航空戰隊司令部ノ殘務ハ本月一日之ヲ第十二戰隊司令部ニ引繼キタリ

○事務開始

第十二戰隊司令部ハ軍艦沖島ニ設置セラレ本月一日其ノ事務ヲ開始セリ

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十七號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月八日(火)

○令達

官房第一五四一號ノ一六
昭和十一年度歳出科目中左ノ通追加ス
昭和十二年十二月二日

海軍大臣

○通牒

航本機密第二三三三號 昭和十一年十二月七日
略和十五年(第五〇七號)
ニ依リ本機自然消滅

自然消滅

海軍航空本部長
海軍省軍務局長

關係各廳長殿

航空機搭乗者標準等ニ關スル件通牒

昭和七年航本機密第五六二號通牒首題ノ件左記ノ通改

正セラレ候

記

航空機搭乗者標準竝ニ機上ニ於ケル職務分擔標準
一、一五式及八九式飛行艇

1719 (限

内

部)

1717

歳出臨時部		歳出經常部	
款	項	款	項
震災復舊費) (官商學校其他) (建造物復舊費)	目	(海軍本省) (俸給)	目
×賞與	解	×賞與	解
	疏		疏
	會計科目 電信略號		會計科目 電信略號
	ウ		ウ

海軍公報(部内限) 第二千四百九十七號

昭和十一年十二月八日

七二五

1720 1718

海軍公報(部内限) 第二千四百九十七號 昭和十一年十二月八日

七二六

座席		搭乗者員數	職務分擔	記事
前席	機上作業員	一	偵察、射撃、爆撃	本標準ニ依ル人員全部ヲ搭
後席	搭乗發動機員	二	發動機、射撃	
三、九一式飛行艇				
座席		搭乗者員數	職務分擔	記事
前席	機上作業員	一	偵察、射撃、爆撃	
後席	搭乗發動機員	二	發動機、射撃	
二、九〇式飛行艇				
座席		搭乗者員數	職務分擔	記事
前席	機上作業員	一	偵察、射撃、爆撃	
後席	搭乗發動機員	二	發動機、射撃	
四、九五式陸上攻撃機				
座席		搭乗者員數	職務分擔	記事
前席	機上作業員	二	偵察、爆撃、射撃	
後席	搭乗發動機員	二	發動機、射撃	乗セシムル場合總重量ヲ超過セザルコト
五、九六式陸上攻撃機				
座席		搭乗者員數	職務分擔	記事
前席	機上作業員	一	偵察、爆撃、射撃	本標準ニ依ル人員全部ヲ搭乗セシムル場合總重量ヲ超過セザルコト
後席	搭乗發動機員	二	發動機、射撃	

備考

- 一、操縦員中ノ一名又ハ搭乗發動機員ニ代フルニ機上作業員ヲ以テスルコトヲ得
- 二、現ニ當直作業ニ従事セザル機上作業員及搭乗發動機員ハ交互後席ニ在リテ見張及射撃ヲ分擔スルモノトス
- 三、本標準ニ依ルノ外三座以上（三座機ヲ含マズ）ノ航空機ニ在リテハ必要アル場合ニハ過荷重量ノ範圍内ニ於テ必要ナル人員ヲ搭乗セシムルコトヲ得但シ教育訓練其ノ他ノ爲常時本搭乗員標準以外ノ人員ヲ搭乗セシムルノ要アル時ハ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クルモノトス
- 四、固有座席數以上ノ人員ヲ搭乗セシムル場合ニハ飛行機重心點ノ移動ニ注意シ危險ナキ様充分ノ顧慮ヲ拂フヲ要ス

○ 雜 款

○ 殘務整理
第七戰隊ノ殘務整理ハ左記ニテ於之ヲ行フ

場 所	海軍省軍務局
主 任 者 官 氏 名	海軍少佐 石 原 宇 市

海軍公報（部内限）第二千四百九十七號 昭和十一年十二月八日

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十八號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月九日(水)

○通牒

軍務一機密第五〇九號

昭和十一年十二月九日

海軍省軍務局長

各鎮守府
各要港部 參謀長殿
各艦隊

海上氣象電報勵行ノ件申進

從來艦船ガ觀測資料不十分ナル洋上ニ於テ不測ノ猛烈ナル低氣壓ニ遭遇シテ船體ノ一部ヲ損傷シ數日間荒天中ニ難航セル例アリ又之ニ反シ重油輸送任務中ノ特務艦等ガ海軍氣象觀測通報規程ニ定ムル海上氣象電報打電ヲ勵行シ適切ナル洋上氣象判斷資料ヲ提供シタル爲有効ナル氣象警報ヲ受ケ巧ニ低氣壓ヲ避航セル例アリ結局海軍氣象觀測通報規程第四條ニ定ムル第二表中海上氣象電報ヲ勵行スルハ其ノ艦(隊)自身ハ勿論海軍一般ノ受クル氣象警報ノ精度ヲ向上シ行動保安ニ資ス

ル次第ニ付此ノ旨一般ニ徹底セシメ海上氣象電報ノ通報ヲ勵行セシメラル様取計相成度

又屢海上氣象電報ガ中央氣象臺ニ不達シ又ハ著シク遅延セル爲無効ニ終ルノミナラズ場合ニ依リテハ一艦ノ保安ニ重大ナル關係ヲ及ボスコトアルヲ以テ海軍各無線電信所ニ於テハ之ヲ中繼スル場合之ガ速達ニ關シ特ニ注意セシメラレ度尙無線通信時間ノ關係上部内無線通信系ニ依リ難キ場合ハ有線電報トスル等常ニ時機ヲ失セザル様取計ハシメラレ度

追テ右海上氣象電報ヲ有線ニテ中繼ノ場合同電報ハ至急局報(無料)ノ取扱ヲ受クル規定(無線電報取扱規程第四十條參照)ニ付爲念申添候

○辭令

海軍少佐 藤井 茂
中華民國及滿洲國へ出張ヲ命ス(海軍省)

海軍公報(部内限) 第二千四百九十八號

昭和十一年十二月九日

七二九

海軍造船中佐 赤崎 繁(技研)
水雷艇千鳥審議委員ヲ命ス

海軍造船少佐 松本 喜太郎
水雷艇千鳥審議委員ヲ免ス

(各通) 海軍大佐 伍賀 啓次郎(艦本)
海軍中佐 成田 茂一(同)

水雷艇鴨審議委員ヲ命ス 海軍中佐 野元 爲輝

水雷艇鴨審議委員ヲ免ス 海軍中佐 三浦 速雄(艦本)

水雷艇鵠審議委員ヲ命ス 海軍中佐 野元 爲輝

水雷艇鵠審議委員ヲ免ス(以上註明海軍艦政本部)

○ 雜 款

○「マラリア」發病者ニ關スル件照會
當隊ヨリ各團(隊)ニ轉勤ノ者ニシテ臺灣出發後三週
間以內ニ「マラリア」ニテ發病セル者ハ一種症トシテ
取扱ハレ度
追而事實證明書ハ通知アリ次第作製送付可致候
(第十一航空隊司令)

○ 懲 罰

懲罰言渡書

海軍公報（部内限）第二千四百九十八號

昭和十一年十二月九日

七三一

海軍公報

(部内限) 第二千四百九十九號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月十日(木)

○令 達

官房第二二七二號ノ九
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和十一年十二月十日

海軍大臣

船種	公稱番號	舊所屬	新所屬	定數別	記事
傳馬船 (九米)	第五八號	吳防備隊	吳海軍港 務部	公稱第二四四五 號代船(定數)	
同	第五五號	同	海軍燃料 廠	臨時附屬	
同	第五三號	同	吳海軍港 務部	公稱第一七四八 號代船(定數)	
同	第五二號	同	吳海軍軍 需部	臨時附屬	

官房第四一四九號ノ五
軍艦伊勢選納艦載水雷艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船楯、
公稱番號、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十一年十二月十日

海軍大臣

船種	公稱番號	所屬	定數別	記事
交通船兼 曳船 (水雷艇型)	第九〇號	海軍機關學校	臨時 附屬	軍艦伊勢選納ノ 艦載水雷艇

○辭 令

海軍武功調査委員長ヲ命ス

海軍中將 山本五十六

海軍少將 清水 光美

海軍大佐 近藤泰二郎

同 市岡 壽

同 市岡 繁

同 市岡 繁

海軍中佐 男爵 富岡 定俊

海軍中佐 新島 信夫

海軍少佐 佐藤 雅毅

(各通)

海軍武功調査委員ヲ命ス	同	川崎 松平
思想調査委員會委員長ヲ命ス	海軍中將	山本 五十六
	海軍少將	野村 直邦
	同	清水 光美
(各通)	海軍大佐	山口 儀三朗
	海軍中佐	石塚 千俊
思想調査委員會委員ヲ命ス	海軍主計大佐	桑原 憲
	海軍少將	清水 光美
表彰審査委員會委員長ヲ命ス	海軍大佐	奥田 喜久司
(各通)	海軍中佐	新島 信夫
表彰審査委員會委員ヲ命ス	海軍大佐	山口 儀三朗
	海軍中佐	杉浦 嘉十
(各通)	海軍機關中佐	秋重 實惠
	同	臺 由男
海軍用語調査委員會委員ヲ命ス	海軍機關少佐	大橋 謙一
陸海軍軍需工業動員協定委員會委員ヲ命ス	海軍大佐	中村 俊久
陸海軍軍需工業動員協定委員會委員兼幹事長ヲ命ス	同	西尾 秀彦
(各通)	海軍中佐	勝田 治夫
	海軍機關中佐	秋重 實惠
	海軍機關少佐	大橋 謙一
陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス	海軍中將	山本 五十六
燃料政策調査委員會委員長ヲ命ス	同	氏家 長明
(各通)	海軍大佐	西尾 秀彦
	同	奥田 喜久司
	海軍機關中佐	秋重 實惠
	同	釜田 勇
燃料政策調査委員會委員ヲ命ス	海軍中將	山本 五十六
軍港要港勢力標準調査委員會委員長ヲ命ス	海軍大佐	山口 儀三朗
	同	阿部 嘉輔
	同	中村 俊久

(各通)
同 西尾 秀彦
同 原 鼎三
同 奥田 喜久司
海軍中佐 岡田 爲次
同 勝田 治夫

軍港要港勢力標準調査委員ヲ命ス
同 湊 乾助

軍港要港勢力標準調査委員(幹事)ヲ命ス
海軍中將 氏家 長明

(各通)
海軍主計少將 高橋 四郎
海軍造機少將 福間 忠哉

海軍工作廳會計制度調査委員ヲ命ス
海軍中佐 鈴木 光信

海軍工作廳會計制度調査委員幹事ヲ命ス
海軍中將 山本 五十六

海軍懲罰令改正委員會長ヲ命ス
海軍少將 清水 光美

(各通)
海軍大佐 山口 儀三朗

海軍懲罰令改正委員會員ヲ命ス
海軍中將 山本 五十六

昭和六年乃至九年事變從軍記章授與調査委員長ヲ命ス

ス
(各通)
海軍少將 清水 光美
海軍大佐 近藤 泰一郎
海軍中佐 新島 信夫
昭和六年乃至九年事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス
(以上三冊海軍省)

○ 雜 款

○通信
海軍通信略語中左ノ通改正シ昭和十二年一月十五日ヨリ實施セラレ
一、追加(發信用ハ二十四頁ノ二裏面ニ、受信用ハ)

略 語	原	語	頁 數
キツケ	近距離通信系	(受信用)	二一
チウツケ	中央通信系		四七
ホウツケ	地方通信系		一一
ホシツケ	補助通信系		一一
エツケ	遠距離通信系		五

海軍公報(部内限) 第二千四百九十九號 昭和十一年十二月十日 七三五

チウエツケ	中央遠距離通信系	四七	チウエツク	中央遠距離通信區	四七
ホウエツケ	地方遠距離通信系	一一	ホウエツク	地方遠距離通信區	一一
チツケ	直接通信系	四七	ムカ	無線艦所〔：所屬無線艦所〕	二九
トツケ	特別通信系	四八	コウムカ	甲級無線艦所	二四
ハツケ	放送通信系	八	ヲツムカ	乙級無線艦所	三四
チウハツケ	中央放送通信系	四七	チム	中樞無線電信所 〔：中樞無線電信所〕	四六
ホウハツケ	地方放送通信系	一一	二、削除		
カツケ	間接通信系	一七	ホム	補助通信系無線艦所	(發信用) 二六 (受信用) 一一
コツケ	航空通信系	二四	ホムカン	補助無線艦	二六
キチツケ	基地通信系	二一	フム	副通信系無線艦所	二六
コキツケ	航空機通信系	二四	フムカン	副無線艦	二六
フツケ	部隊通信系	一一	コク	交信區〔：交信區〕	二七
ツク	通信區	四八	シム	主通信系無線電信所	二九
キツク	近距離通信區	二一			
エツク	遠距離通信區	五			

海軍公報

(部内限) 第二千五百號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月十一日(金)

○令 達

官房第三六八三號ノ三
昭十一年官房第三六三三號ノ三
當分ノ間第一潜水戦隊所屬潜水艦ニ對シ同隊旗艦五ノ
錦主計長ヲシテ母艦主計長ノ職務ヲ執行セシム

昭和十一年十二月一日

海軍大臣



○通 牒

航本機密第二三四九號

昭和十一年十二月十日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

航空發動機用發火栓使用ニ關スル件通牒

本年九月十二日附航本機密第一六五〇號通牒別表中壽
發動機一、二型及壽發動機二型改一用使用發火栓ノ欄
ヨリ(ヨコカワRT2)ヲ除ク

○雜 款

○郵便物發送先

第二十九驅逐隊(疾風)宛

十二月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

共ノ後ハ 長崎

追而司令又ハ隊宛ノ書類ニシテ疾風ニ必要アルモノ

ハ其ノ寫ヲ直接同艦宛送付相成度

尙十二月十四日以後當隊隊職員乘艦區分左ノ通

機關長 疾風

軍醫長 疾風

主計長 追風

(第二十九驅逐隊)

○懲罰

懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第二千五百號 昭和十一年十二月十一日

七三七

1730

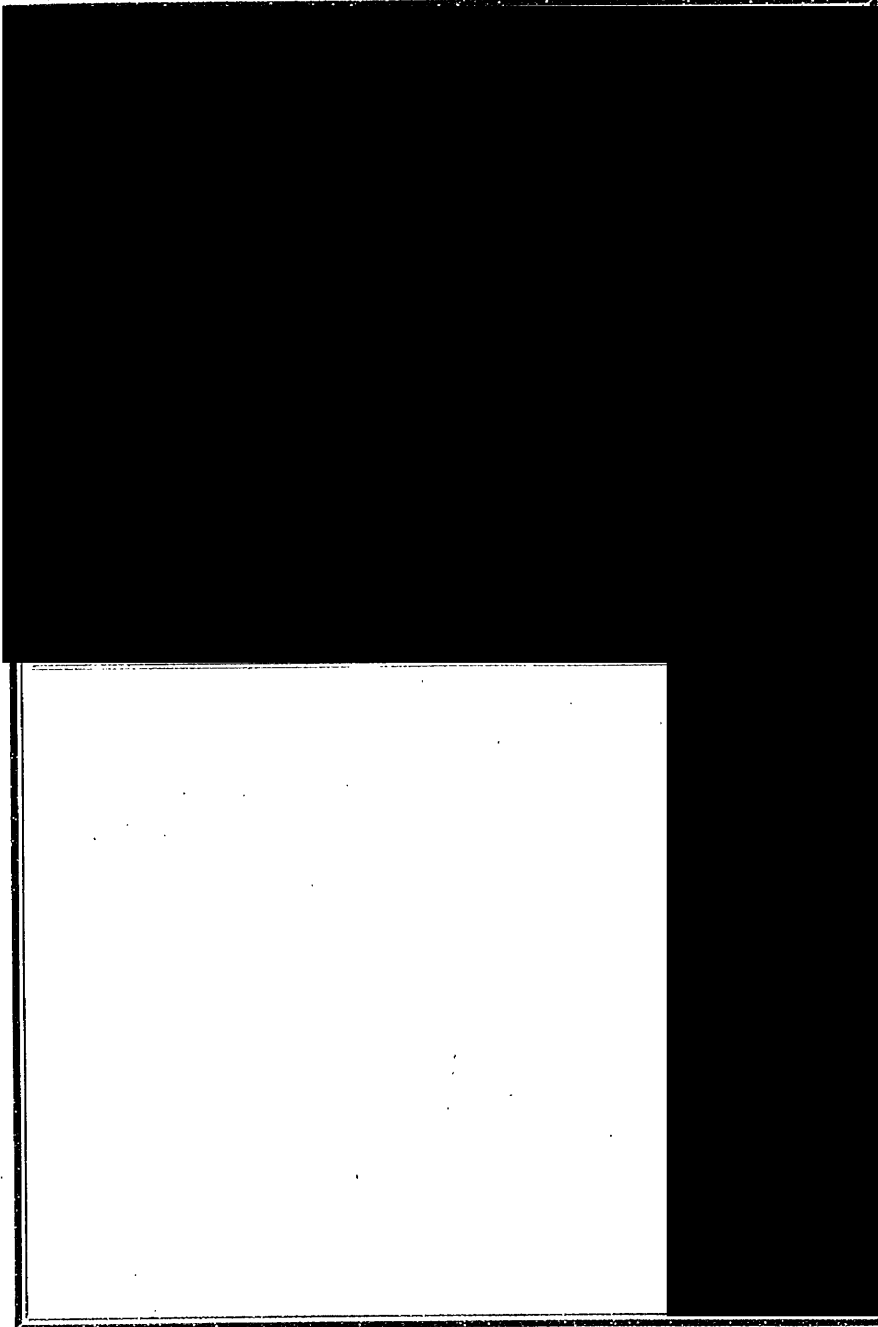
海軍公報(部内限) 第二千五百號
昭和十一年十二月十一日

七三八

海軍公報（部内限） 第二千五百號 昭和十二年十二月十一日

七三九

1732



海軍公報(部内限) 第二千五百號 昭和十一年十二月十一日

七四〇

海軍公報

(部内限) 第二千五百一號

海軍大臣官房

昭和十一年十二月十二日(土)

○令達

官房第五七三九號ニテ本號廢止

要登載

昭和十一年十二月十二日

海軍大臣

駐滿海軍部司令官殿

哈爾濱在勤武官ニ關スル件訓令

當分ノ間駐滿海軍部附士官一名ヲ哈爾濱ニ在勤セシメ
之ニ書記一人ヲ附シ左記要領ニ依リ服務スル様取計フ
ベシ

記

一、勤務地及其ノ附近所在ノ帝國陸軍、外務官憲ト連
繫ヲ保持シ海軍關係事項ノ交渉處理、調査及諜報
事務ニ從事ス

二、諜報事務ニ關シテハ軍令部總長ノ區處ヲ受ク

官房機密第二八一四號ノ三

昭和十一年官房機密第二八一四號中左ノ通改正ス

海軍公報(部内限) 第二千五百一號 昭和十一年十二月十二日

七四一

昭和十一年十二月十二日

海軍大臣

第四號員數表中第一期横須賀鎮守府ノ欄「一六」ヲ「一
八」ニ、同計ノ欄「三六」ヲ「三八」ニ改ム

(参照) 昭和十一年官房機密第二八一四號ハ海軍航海學校

ニ於テ航海術(氣象)臨時講習施行講習員派遣ノ
件ナリ(十月二十四日海軍公報部内限)

○通牒

軍需需第一八六號ノ三

昭和十一年十二月十二日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
舞鶴要港部軍需部長殿

航海長主管艦營需品備品碇泊燈更新

關スル件通牒

首題物品ハ昭和七年六月達第八十七號ニ依リ現行通ノ

品名ニ改正セラレ當時ノ礎泊燈大ハ其ノ儘現行品名ニ
 組替ノ上命數限リ使用ノコトニ指示セラレテ候處現
 ニ供用中ノ該品全部ヲ現行品ト更新スルコトニ取計相
 成度所要經費ハ請求ヲ俟テ別途告達可相成候
 追テ還納品並ニ在庫品ハ出師準備充當品トシテ當分
 之ヲ保管スルコト了知相成度

經契第三號ノ一二三六

昭和十一年九月二十五日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

一、價格表（一）へ左ノ通追加ス

品名	寸法	單價（ニ米ニ付）	擔當會社	記	事
人造黒鉛電極棒 <small>（接手ヲ含ム）</small>	三〇四×一五二〇 <small>（徑）（長）</small>	七九〇〇〇	東海電極製造株式會社 日本カーボン株式會社		

二、價格表（三）へ左ノ通追加ス

品名	用途寸法	單價（二個ニ付）	擔當會社	記	事
人造黒鉛電極接手	三〇四×一五二〇 <small>（徑）（長）</small> 電極用	一三〇〇〇	日本カーボン株式會社		

人造黒鉛電極棒及同接手購買合併契約
 更改ノ件通牒
 首題ノ件ニ關シ曩ニ通牒致置候處左記ノ通契約更改致
 候條了知相成度
 （九月十八日公報參照）

記

更改契約書

昭和拾壹年八月壹日附海軍省經理局長村上春一ト東海
 電極製造株式會社、日本カーボン株式會社トノ間ニ契
 約締結セル人造黒鉛電極棒及同接手ノ契約書中左ノ通
 更改ス

右更改契約ヲ證スル爲本書試通ヲ作り雙方記名調印シ
テ各自其ノ壹通ヲ保有ス

昭和拾壹年九月貳拾五日

海軍省經理局長 村上春一
東海電極製造株式會社
日本カーボン株式會社

○ 辭 令

海軍中佐 朝倉 豐次
同 竹 崎 馨
海軍機關大佐 澤 遼
同 山口 信助
海軍機關少佐 山田 彪男
海軍技師 鈴木 爲文

海軍用語改正ノ爲海軍用語調査委員會臨時委員ニ指
定ス(海軍用語調査委員會委員長)

海軍公報(部内限) 第二千五百一號 昭和十一年十二月十二日

海軍公報 (部内限) 第二千五百二號

昭和十一年十二月十四日(月)
海軍大臣官房

(限 内 部)

○通牒

經契第三號ノ一一三五

昭和十一年十二月一日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

機關用銅管價格改訂ノ件通牒

八月壹日附經契約第三號ノ八一〇ヲ以テ通牒ノ首題銅管價格ハ契約書第一條第二項ニ依リ左記ノ通更改契約致候條左ニ依リ處理相成度

記

更改契約書

昭和拾壹年八月壹日附海軍省經理局長村上春一ト株式會社神戸製鋼所、住友金屬工業株式會社、古河電氣工業株式會社、湯淺伸銅株式會社ノ間ニ締結セル機關用銅管ニ關シ更改スルコト左ノ如シ
一、第一條中別紙價格表ヲ別紙ノ通改ム

右更改契約ノ證トシテ本書式通ヲ作り各自記名調印シテ各共ノ壹通ヲ保有ス

昭和拾壹年拾貳月壹日

海軍省 經理局長 村上春一

株式會社 神戸製鋼所

住友金屬工業株式會社

古河電氣工業株式會社

湯淺伸銅株式會社

(別紙一葉添)

○辭令

海軍機關大尉 村井一十郎(千鳥)

水雷艇千鳥審議委員ヲ命ス

海軍機關大尉 古川 三夫

水雷艇千鳥審議委員ヲ免ス(以上二名海軍艦政本部)

海軍中佐 藤谷 安宅

海軍軍事普及部幹事ヲ命ス(同海軍軍事普及部委員)

海軍公報(部内限)第二千五百二號

昭和十一年十二月十四日

七四五

1737

海軍公報(部内限) 第二千五百二號 昭和十一年十二月十四日

七四六

長)

海軍大學校教官兼海軍砲術學校教官

海軍少佐 寺崎 隆治

主トシテ兼務應ニ於テ服務セシメラル(社)海軍大學校)

社會式株銅伸淺湯	社會式株業工氣電河古	所 鋼 製 戶 神 社 會 式 株	社 會 式 株 業 工 屬 金 友 住	所 鋼 製 戶 神 社 會 式 株	屬 金 友 住 社 會 式 株 業 工	契約社名
						内徑
						寸
						外徑
						度
						厚サ
						長サ
						(耗)
						本當單價
						記 事
"六" "〇" "二"	"五" "〇" "二" "二五"	"三〇三〇" "四〇四五" "五〇六〇七〇" "八〇" "九〇" "一〇〇"	"一〇〇" "一四〇〇" "一五〇〇" "一六〇〇" "一八〇〇"	"二〇〇〇" "二二〇〇" "二四〇〇" "二六〇〇"	二八〇〇 三〇〇〇 三四〇〇	内徑
						外徑
二・三 一・六 二・〇 " " " " " "	二・〇 一・八 二・〇 一・八 二・九 二・〇 一・八	二・〇 一・八 二・六 一・八 一・〇 " " " " " " " " " " " " " " " "	二・〇 二・六 " " " " " " " " " " " "	二・〇 三・二 二・六 " " " " " "	四・〇 " " " " " " " " " " " "	度
						厚サ
						長サ
						(耗)
三五三〇 三一七〇 四〇七〇 三五九〇 四〇一〇	五三六〇 四七三〇 六七四〇 六〇九〇 一一九五〇 八〇一〇 七二二〇	九五〇〇 八六二〇 一〇〇二〇 一六七〇 一一四二〇 一三一九〇 八七八〇 一五九二〇 一八九九〇 二二二七〇 二五八三〇 二九三六〇 二九七六〇 三三七九〇 三三五七〇 三七七六〇	四二五〇 五三四三〇 六二五七〇 五八〇七〇 六二六二〇 七〇八八〇 八三六八〇 一〇七二五〇 九六八一〇	一三五〇五〇 一四五八九〇 一七三五三〇 二一一二八〇 二六九一六〇	六一九二四〇 四〇二一七〇 四一八四三〇	本當單價
在大阪監督官監督	在大阪監督官監督		在大阪監督官監督		在大阪監督官監督	記 事

繼 目 無 銅 管

(昭和十一年十二月十四日公報(部内限)別紙)

海軍公報 (部内限) 第二千五百三號

昭和十二年十二月十五日(火)
海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一六號ノ五六

昭和十一年十二月十五日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各潜水艦兵器簿機關長主管二次電器之部中左記兵器ヲ
削除ス

記

エポナイト製漏斗、護謨製漏斗、エポナイト製柄杓、
護謨製柄杓

○辭 令

(各通) 海軍技術會議議員海軍中佐 平井 泰次

同 海軍大尉 浦田 輝次郎

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス
海軍機關少佐 大橋 謙一

陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ免ス
海軍豫備少尉 田中 定雄

同 伊佐坂 則元

同 鶴殿 文男

同 篠原 隆文

同 山口 英雄

同 河合 孝道

同 河塚 一衛

同 玉井 章

同 大原 末徳

同 野元 忠行

同 海軍豫備機關少尉 千原 義雄

同 松木 精

同 大野 直文

(各通)

海軍公報 (部内限) 第二千五百三號 昭和十二年十二月十五日

七四七

同	黒井 寛二	海軍少佐	松村 翠(軍務)
同	野澤 忠雄	同	橋本 宙二(艦本)
同	栗原 正司	同	廣岡 忠男(通校)
同	楠 仙次郎	同	菊岡 徳次郎(佐)
同	三浦 明夫	同	天野 盛高(軍令)
同	五十嵐 義松	同	石原 宇一(軍務)
同	星野 省吾	同	中山 一俊(横)
同	稻垣 眞幸	同	戸田 與四郎(東電)
右勤務召集ヲ解除ス(以上皆海軍省)		海軍大尉	小澤 仙吉(技研)
海軍造兵少將 目高 鱧一(技研)		海軍機關大佐	矢島 彌太郎(艦本)
官房機密第二八八七號訓令高速度通信装置實驗委員		海軍造兵少佐	高橋 修一(佐)
長ヲ命ス		海軍特務大尉	田中 仙藏(佐)
海軍造兵少將 勇爵 向 山 均(技研)		海軍特務中尉	志賀 三男(東電)
海軍大佐 佐々木 清恭(艦本)		同	清田 榮松(佐)
同 中嶋 省三郎(同)		海軍技師	池谷 増太(技研)
同 濱 野 力(技研)		同	田邊 一雄(同)
海軍中佐 木岡 蟻志松(東電)		同	大野 茂(艦本)
同 宮本 八十三(佐電)		官房機密第二八八七號訓令高速度通信装置實驗委員	
同 汐崎 進(佐)		ヲ命ス	
同 大家 吾一(艦本)		海軍技手	田坂 善一(佐)
同 鈴木 光信(同)		同	津村 孝雄(技研)

(各通)

(各通) 同 鈴木親太(佐廠)
 同 石井實(技研)
 同 鈴木貫之(同)

官房機密第二八八七號訓令高速度通信装置實驗委員
 附ヲ命ス

海軍大佐 松浦永次郎(金剛)
 同 伍賀啓次郎(艦本)
 海軍中佐 峰松寧夫(橫艦)
 同 野元爲輝(艦本)
 同 三浦速雄(同)

(各通) 同 松本龜太郎(金剛)
 海軍少佐 齊藤泰藏(同)

海軍機關大佐 島本万太郎(艦本)
 海軍機關中佐 本田香橋(金剛)
 同 日色謹爾(橫艦)
 海軍造船大佐 渡邊隆吉(艦本)
 海軍造船少佐 本多政徳(橫廠)

軍艦金剛審議委員ヲ命ス(以上共請海軍艦政本部)

○ 雜款

○郵便物發送先
 第二十一水雷隊司令部(千鳥、真鶴)宛
 三月二十一日迄到達見込ノモノハ
 兵庫縣相生町 播磨造船所内
 其ノ後ハ 佐世保
 追而隊司令部(司令)宛書類ニシテ各艇ニ關係アル
 モノハ別ニ初雁艇長宛一通送付相成度
 水雷艇友鶴、初雁宛
 從前通

海軍公報(部内限)第二千五百三號

昭和十一年十二月十五日

七四九

(限 内 部)

1742

海軍公報

(部内限) 第二千五百四號

昭和十一年十二月十六日(水)

海軍大臣官房

○ 通 牒

官房第五七八八號

昭和十一年十二月十六日

海軍省 副官

關係各廳御中

暹羅國海軍潜水艦進水式參會諸官ノ

服裝ニ關スル件申進

十二月二十四日神戸三菱造船所ニ於ケル暹羅國海軍潜水艦「マツチャース」及「ウイロン」進水式ニ來賓トシテ赴カルル諸官ノ服裝ハ軍裝勳章一個ノコトト御了知相成度

○ 雜 款

○ 懲 罰

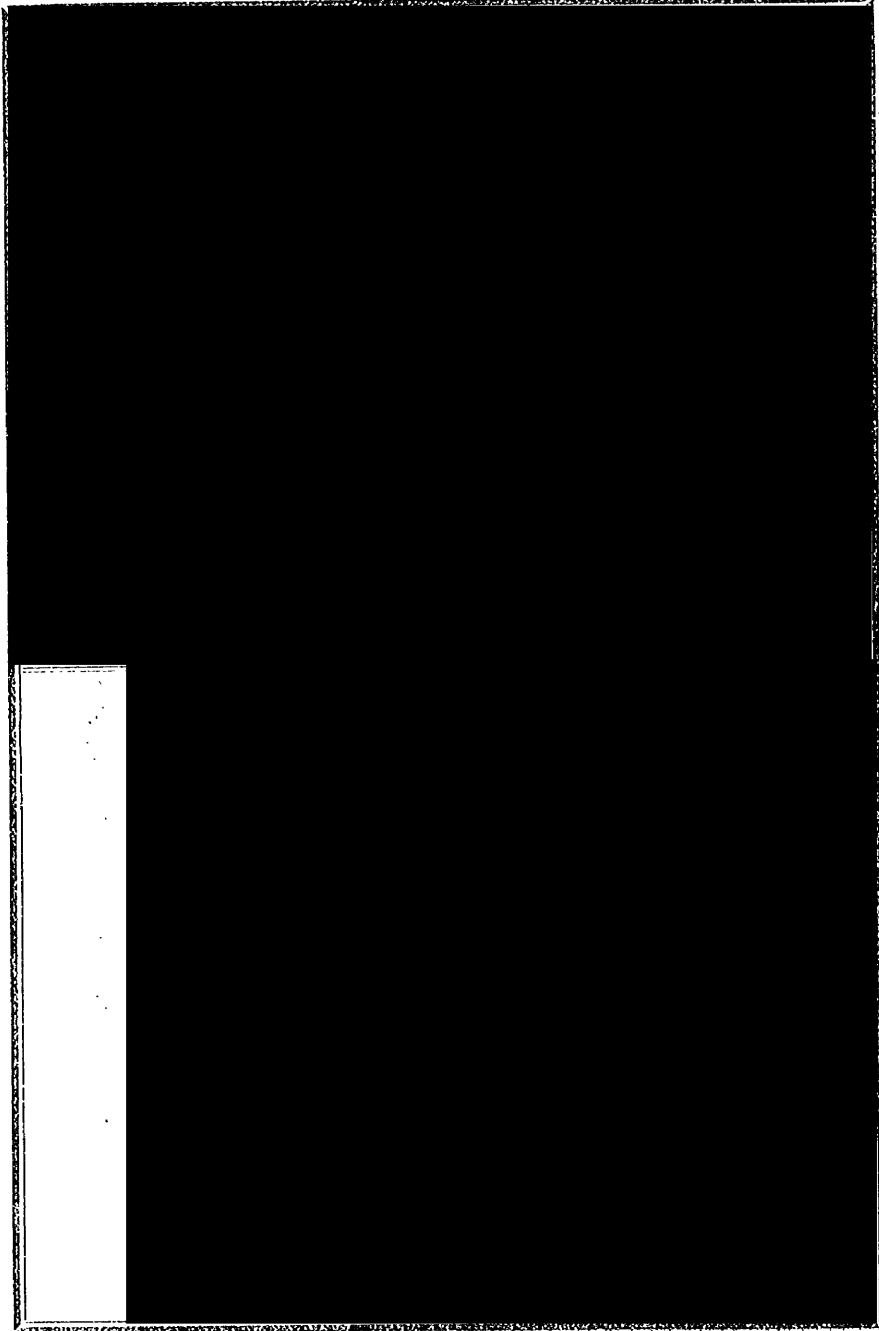
懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第二千五百四號

昭和十一年十二月十六日

七五二

1743



海軍公報(部内限) 第二千五百四號
昭和十一年十二月十六日

七五二

海軍公報 (部内限) 第二千五百五號

昭和十一年十二月十八日(金)
海軍大臣官房

○令 達

第五〇二七二號ノ一〇
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和十一年十二月十八日

海軍大臣

船種 公稱番號 舊所屬 新所屬 定數別 記事

内火艇 第九五號 佐世保海軍需部代船(臨時附屬)

官房機密第三三三八號

昭和十二年度ニ於テ採用スベキ各種練習生ノ員數ヲ左ノ通定ム

昭和十一年十二月十八日

海軍大臣

練習生種別 所 管
横須賀 鎮守府 吳 鎮守府 佐世保 鎮守府 合計

特修科砲術 一六 一四 一二 四二

高等科砲術	普通科砲術	高等科測的術	普通科測的術	高等科			普通科			水雷術	水雷術	運用術
				魚雷	航空	機雷	魚雷	航空	機雷			
一七〇	一五〇	一七〇	一五〇	二〇〇	二二〇	二二〇	二〇〇	二二〇	二〇〇	二〇〇	二〇	
四五〇	四二〇	七五	五五	四〇	二〇	一〇〇	四〇	二〇	一〇〇	二六	二〇	
一四〇	一四〇	一五〇	五〇	二二〇	二二〇	一〇〇	二〇	八〇	二〇	三〇	二〇	
四六〇	四三〇	一四〇	五〇	二二〇	二二〇	八〇	二〇	二八〇	二〇	二四	二〇	
一三〇	一三〇	一四〇	一八〇	六四〇	一六〇	一〇〇	四〇	八〇	六〇	八〇	六〇	

海軍公報(部内限) 第二千五百五號 昭和十一年十二月十八日

七五三

航空高等科		航空高等科		航空術			普通科		電信術		高等科電信術		普通科		高等科		普通科		
寫真兵器	攻撃兵器	寫真兵器	攻撃兵器	偵察	操縦	飛行	徴兵	志願兵	徴兵	志願兵	徴兵	志願兵	徴兵	志願兵	徴兵	志願兵	徴兵	志願兵	
六	二六	三	一〇	五〇	一四〇	第五期第六期飛行豫科練習生教程卒業者ヲ以テ之ニ充ツ	一八〇	昭和十二年度ニ於テ掌電信兵志願ノ水兵及偵察練習生志願ノ航空兵トシテ採用スル員數ヲ以テ之ニ充ツ	三〇〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	三〇〇	九〇	一〇〇	九〇	九〇	九〇	
四	一八	一	五	二〇	七〇		一二〇		二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	
三	二八	二	七	三〇	八〇		一六〇		二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	
一三	六二	六	二二	一〇〇	二九〇		四六〇		八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	
特修科軍樂術		工術		工術		普通科電機術		高等科電機術		機關術		普通科		高等科		普通科整備術		高等科整備術	
		工木業具	工金業具	工木業具	工金業具					掌機	機内火	掌機	機内火	掌機	機内火				
二〇		三五	一〇〇	四	五	一七〇	八〇	二〇〇	九〇	二〇〇	六八	三五	八〇	二八〇	一四〇	二八〇	一四〇	二八〇	一四〇
		三〇	八五	四	四	一六〇	六〇	二〇〇	八〇	二〇〇	六六	三五	八〇	一一〇	八〇	一一〇	八〇	一一〇	八〇
		三五	七五	三	四	一五〇	六〇	二〇〇	七〇	二〇〇	六六	三〇	八〇	一三〇	八〇	一三〇	八〇	一三〇	八〇
		一〇〇	二六〇	一一	一三	四八〇	二〇〇	六〇〇	二四〇	六〇〇	二〇〇	一〇〇	二四〇	五二〇	三〇〇	五二〇	三〇〇	五二〇	三〇〇

海軍公報(部内限)第二千五百五五號 昭和十一年十二月十八日

七五四

備考	潜航術				掌厨術	普通科經理術	高等科經理術	普通科看護術	高等科看護術
	掌電機	掌機	掌水雷(機雷)	掌水雷(魚雷)					
一、練習生ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込無キ爲及其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ免ジタル場合ニ於テ教育開始後十日以内ナル時ハ補缺採用ヲ爲スコトヲ得	七〇	六〇	六	八〇	四五	六〇	二五	八〇	四〇
二、航空術練習生ハ告達員數ヲ採用シ得ザル場合ニ限リ各鎮守府間彼此増減スルコトヲ得	五〇	六〇	一四	六〇	四五	四五	二〇	六〇	四〇
三、昭和十年達第九十六號ノ規定ニ依リ練習生トシテ	四〇	四〇	一〇	六〇	四〇	五五	二五	六〇	三五
	一六〇	一六〇	三〇	二〇〇	一三〇	一六〇	七〇	二〇〇	一一五

採用スベキ者ハ本號ニ定ムル告達員數以外トス

○通牒

官房第五八四七號

昭和十一年十二月十八日

海軍次官

各鎮守府司令長官
舞鶴要港部司令官
海軍艦政本部長

臨時工廠長會議開催ノ件申進

明年度工作廳事業實行ニ關シ臨時工廠長會議ヲ明年一月二十一日、二十二日ノ兩日開催セラルルニ付工廠長、航空廠長、技術研究所長及火藥廠長(會計部長又ハ之ニ準ズル者ヲ帶同)ヲ海軍艦政本部ニ參集セシメラレ度

軍務一機密第五二五號

昭和十一年十二月十八日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

帝國艦艇戰鬥力要表修補訂正資料ノ件照會

海軍公報(部内限) 第二千五百五號

昭和十一年十二月十八日

七五五

現用ノ帝國艦艇戰力要表ハ昭和九年十月末ノ改正ニ係リ爾來艦艇ノ改装、改造、新式兵器機關ノ採用裝備等ニ依リ要表記載事項ハ實狀ト相違ノ箇所多數有之ニ付此ノ際之ガ改補ヲ行ヒ度候條昭和九年官房機密第一三四九號ニ依リ昭和十二年二月一日附調製スベキ資料ハ既通報ノモノニ拘ラズ現用要表ノ補正スベキ事項全部ニ亘リ記載セラレ度

追テ要表ニ記載ナキ新造艦船ハ同一艦種ノモノニ準ジ所要事項新規調製ノ上送付セラレ度

(内令提要卷一、七三七頁參照)

○ 辭 令

(各通) 海軍大佐 辻 榮 作
海軍少佐 吉田 義 行

昭和六年乃至九年事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス (註同海軍省)

(各通) 海軍豫備少尉 小栗 三郎
同 荒木亮之助

海軍豫備機關少尉 垂 髮 讓
右勤務召集ヲ解除ス(註同)

○ 雜 款

○ 正 誤

本月二日通牒欄艦本機密第一六一三七號兵器保管轉換ノ件通牒機關長主管消耗品中「調帶」ハ「調革」ノ、同十五日辭令欄下段十一行目「平塚」ハ「手塚」ノ就モ誤

海軍公報

(部内限) 第二千五百六號

昭和十一年十二月十九日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房第三三四一號
艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和十一年十二月十八日

海軍大臣

運用長 主管、備品

艦名	類別		
	番號	品名	數
六	一	七	七
	一	七	七
六	一	七	八
	一	七	八

戰艦、練習戰艦、一等巡洋艦(加古型、古鷹型ヲ除ク)
最上、三隈、鈴谷、加賀、赤城、大鯨、常磐、淺間、八雲、田島、磐手、神威、能登呂

記事

○雜 款

○旗艦變更
佐世保警備戰隊司令官ハ本月十七日旗艦ヲ北上ヨリ妙高ニ變更セリ

○郵便物發送先
自今 軍艦妙高氣付

○懲罰

古鷹、加古、青葉、衣笠、二等巡洋艦(最上型ヲ除ク)	四	四
鳳翔、龍驤、迅鯨、長鯨、沖島、春日、對馬、韓崎、特務艦	四	四
勝利、白鰐、嚴島、八重山、胸橋、砲臺、驅逐艦	三	三
潜水艦、水雷艇、掃海艇、驅潜艇	二	二

定員ヲ控カザル
第四機備艦ヲ除ク

海軍公報(部内限) 第二千五百六號 昭和十一年十二月十九日

七五七

懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第二千五百六號 昭和十一年十二月十九日

七五八